

# 『苦難を乗り越えた信仰者たち』 '20/03/29(ライブ礼拝) 聖書箇所:ローマ人への手紙 8章 28節(新約 p.302)

皆さん、おはようございます！…と言いましても、今、ここには、礼拝を持てるだけの最低限の人数で、集まってきております。今日は、初めて、八田西 CC で、Facebook を使った「ライブ配信」を通して、今、この映像を見てくださいと皆さんと一緒に、礼拝を捧げていきたいと思っております。

皆さんもご存知の通り、私たち、八田西 CC では、3/8 から教会で捧げる礼拝を休止して…、できましたら、各家庭で礼拝を持っていただきたいということをお願いしています。それに関しては、今現在も変わらず、教会の皆さんをお願いしているわけですが…、できましたら、今日から、しばらく、この Facebook を通して、神様をあがめたいと思いますので、どうぞ、よろしく願います。

## 命題: 信仰によって、苦難を乗り越えた信仰者たちの歩みとは？

さて、今日、私たちが見ていきたい聖書のみことばは、ローマ 8:28 のみことばです。本当は、今続けて学んできているマルコ伝 1 章から、一緒に学びたかったのですが、今日は、第 1 回目のライブ配信、また、実験的ということもあって、今日、この動画を見ることができなのは、正直、ほんの一部の方たちだけだと思いますので、今日のところは、特別に、皆さんが、よくご存知のみことばである、ローマ 8:28 のみことばを一緒に考えていきたいと思っております。

改めて言うまでも無く、私たちは今、結構な困難の中におります…。正直、私自身も、このような状態が続いたら、一体、いつになったら、皆さんと一緒に礼拝を捧げることができるのだろうか？新型コロナウイルスが益々蔓延していったら、この教会はどうなってしまうのだろうか？と思っております。

でも！だからこそ、私たちは、ローマ 8:28 のみことばを、今一度覚えることが大事なのです！…正直、苦難や困難というのは、誰にだって襲ってきます。皆さんだって、これまでに、大変なことを幾つも経験してこられたのではないのでしょうか？今、私が言っております「苦難、困難」というものは、私たちが持っている信仰から来る苦難や困難のこと…、つまり、信仰ゆえの迫害のことではありません。…だって、今、私たちが直面している新型コロナウイルスの問題は、信仰の有る無しに関わらず、ほとんど、すべての人に襲いかかってきている現実でしょ？

どうぞ、まずは、今回の聖書のみことばである、ローマ 8:28 のみことばをご覧ください。そこには、このように記されてあります。『神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。』…今日は、このみことばの解釈というよりも、このみことばの「適用・実践」ということを、皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。…と言いますのは、このみことばを、皆さんは、もう既に、よくご存知だからです。そうでしょ？

ここローマ 8 章には、全体として、神様によって救われた私たちに与えられた「神の助け」について記されてあります。だから、ローマ 8 章前半には、私たちに与えられた、「聖霊なる神様による助け」について教えられてあって、…そうして、ローマ 8 章後半では、その神様からの助けを与えられた私たちには、何も恐れることはない！という、神様からの励ましを見ることができるところです。

でも、ホント、皆さん。そうじゃありません？このローマ書が教えてくれているように、かつて、私たちは、真の神様のことを拒んでいたがゆえに、その神様とは敵対関係にあったわけで…、それゆえに、私たちに、「天から、神の怒りが啓示されてあった」わけですよ。そうでしょ？

しかし、そんな私たちが、神様からの助けによって、真理へと導かれて…、自分たちの過ちを認めて、その罪を正しく悔い改めることと、イエス様を信じる信仰によって救われて、私たちは今、その神様と一体とされたわけです。…ま、そういったことが、ここローマ 8:28 に至るまでの文脈であります。

さあ！それでは、どうぞ、このローマ 8:28 をご覧ください。どうか、まず、皆さんに注目していただきたいことは、このみことばが、神様の助けと言うか、神様からの祝福というものが、私たちすべての人間たちに及ぶ…と言うのではなく、その対象を限定しているということです。そうでしょ？

その対象は、こうです、『神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには…』と書かれてある通り、神様が働いて、益となしてくださるのは、…残念ながら、「この地上に生きるすべての人間たち…」ではありません！神様が働いて、祝福を与えてくださるのは、先程も説明した通り、この神様が遣わしてくださった助け主であるイエス・キリストを信じたクリスチャンだけです！

だから、どうぞ、今日のみことばの少し前をご覧ください。…例えば、ローマ 8:1-2、『1 こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。2 なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。』⇒イエス様を信じる信仰を持ったクリスチャンが、もう今既に、罪から解放されている！という話です。

また、今日のみことばのすぐ後、ローマ 8:34-39、『34 罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしてくださるのです。35 私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。36 「あなたのために、私たちは一日中、死に定められている。私たちは、ほふられる羊とみなされた。」と書いてあるとおりです。37 しかし、私たちは、私たちが愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、39 高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちが引き離すことはできません。』

⇒真の神であり、また、救い主であるキリストと継ぎ合わされた私たちは、決して、キリストと引き離されることはない！だから、私たちは、如何なる困難があろうと、圧倒的な勝利者となるのだ！というのが、このメッセージです。そうでしょ？

でも、そうだったら、一体どうして、パウロは、今日のみことばのローマ 8:28 で、「信仰を持って、救われた私たちは…」とは書かずに、『神を愛する人々…』なんていう表現を使ったのでしょうか？…もちろん、ここで使われてある、「(神を)愛する」という表現には、皆さんもよくご存じの、「アガパオー」というギリシア語の動詞が使われてあります。

このアガパオー(ἀγαπάω)というギリシア語の動詞は、「男女間の性別を超えた、神様からの深い愛を表わす時に使われる…(とか)、神様からの自己犠牲的な最高の愛を表わす時に使われる…」などと言われることがあります。

そのような、「大きな愛」を表わす言葉が使われて…、今日のみことばは教えるわけですよ、「そのような大きな愛でもって、神様を愛する人々に対して…、神は、すべてのことを働かせて、益としてくださる！」って…。ちなみに、ここで、『愛する』という動詞に使われてある時制は、現在形の名詞です。つまり、「神様のことを深く、大きな愛でもって愛し“続けていく”者たちに対しては…」ということです。…そのように、本当に救われた者たちは、真の神様のことを一時的な愛ではなくて…、恒久的な…、つまり、継続的に、神様のことを愛していく！というわけです。

皆さん、思い浮かびませんか？…聖書の中には、信仰を持って救われた者たちが皆、その救い主である神様のことを愛して、従順に従っていた信仰者で溢れていますでしょ？…と言うか、信仰を持って、本当に救われた者たちの中で、神様のことを愛さなかった者が、果たして、いるでしょうか？

例えば、イエス様は、ヨハネ 8 章で、イエス様のことを、ただ口先だけで信じたと告白したユダヤ人たちに対して、こんなことを警告しておられます、『神がもしあなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを“愛するはず”です。なぜなら、わたしは神から出て来てここにいますからです。わたしは自分で来たのではなく、神がわたしを遣わしたのです。』(ヨハネ 8:42)って…。このように、もしも、その人が神様によって、本当に救われて、神様によって変えられたのなら、その人は、イエス様のことを愛するはずです！

そういうことは、Iヨハネ書でも教えられてあります。例えば、Iヨハネ 4:20、『神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。』⇒つまり、神様を信じて救われたクリスチャンたちは皆、神を愛することはもちろん、その同じ神様によって救われた兄弟姉妹をも愛するはずだ！ということです。

また、Iヨハネ 5:3 では、こんなことも教えられてあります。『神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。』って…。このように、あなたが、本当に、神様のことを信じて、救われておられるなら、あなたは、この神様のことを愛しておられるはずです。…と同時に、あなたは、この神様からの命令である、聖書のみことばを愛して、このみことばに従っていきたくて…と思っておられるはずです。…これは、私の考えではありません。すべてを御存知の神様が、そうおっしゃっているのです！

## I・ピリピの町で、投獄されたパウロ！（使徒 16:25-33）

では、今から、実際に、その神様のことを愛して、様々な苦難を乗り越えた信仰者たちを2人ほど、見ていきたいと思います。どうぞ、皆さん、まずは、使徒 16:25-33をお開きくださいますか？…ここは、大変有名なみことばで、あのパウロが、今で言うところのギリシャに行って、そこで伝道したために、“投獄”されてしまった時のことが記されています。そこには、このように記されています。

25 真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。

26 ところが突然、大地震が起こって、獄舎の土台が揺れ動き、たちまちとびらが全部あいて、みな鎖が解けてしまった。

27 目をさました看守は、見ると、牢のとびらがあいているので、囚人たちが逃げたものと思ひ、剣を抜いて自殺しようとした。

28 そこでパウロは大声で、「自害してはいけません。私たちはみなここにいます」と叫んだ。

29 看守はあかりを取り、駆け込んで来て、パウロとシラスとの前に震えながらひれ伏した。

30 そして、ふたりに外に連れ出して「先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか」と言った。

31 ふたりは、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」と言った。

32 そして、彼とその家の者全部に主のみことばを語った。

33 看守は、その夜、時を移さず、ふたりを引き取り、その打ち傷を洗った。そして、そのあとですぐ、彼とその家の者全部がバプテスマを受けた。

### ●様々な問題のゆえに、福音が広まった！

いかがでしょう？…このみことばは、多分、皆さんも、よくご存知ですよ？…この個所の少し前をご覧くださいますと、この時の状況を分かってくださると思います。この時、パウロは、悪霊に取りつかれていた女奴隷から、悪霊を追い出しました。すると、その女奴隷のことを使っていた主人たちは、パウロとシラスに対して、腹を立てて…、パウロたちのことをローマの役人に訴えるわけです。その結果、パウロと

シラスとは、ピリピの牢屋に投獄されてしまうわけです。その時の様子が、今読んだ、25-33節のみことばです。どうぞ、そこの25節をご覧ください。そこには、『真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。』と記されてあって、パウロたちが伝道をして投獄されたにも関わらず、しかも、その後でムチで打たれても、失望することなく…、神様をほめたたえていたことが分かります。

多分、皆さんは、よくご存知だと思います。パウロたちが経験した困難って、この時の投獄だけでした？⇒いいえ！例えば、ピリピ書1章を見てみますと、そこでも、パウロが投獄されていた時のことが記されています。ちなみに、その時は、恐らく、ローマで投獄されていたろうと考えられていますが、でも、その時も、パウロは、自分が投獄されたことを感謝しているのです。皆さん、これってどういうことなのでしょう！？

一体どうして、パウロは自分が投獄されても…、ムチで打たれても、あるいは、苦しめられても、それを感謝することができたのでしょうか？⇒ピリピ書1章で、パウロは、こう言っています、「自分が投獄されたことで、福音のメッセージが広まったし…、なおかつ、多くのクリスチャンたちが、『主にあつて確信を与えられ』(ピリピ1:14)、ますます、成長させられていった、って…。だから、パウロは、自分に与えられた困難や試練を喜ぶことができたのです！

### ●パウロの投獄によって、看守の家族が救いに導かれた！

どうぞ、今度は、使徒 16:26以降をご覧ください。…この時、パウロたちが牢獄の中で賛美をしていたところ、そこに大地震が起こります。すると、獄舎の扉が全部開いてしまつて…、それを見た看守は、「大変だ！囚人たちが脱獄してしまつた！」と早合点して、自殺しようとする。しかし、実際は、パウロとシラスだけでなく…、誰も脱獄などしていませんでした。それで、看守は感銘して、パウロたちに、こう尋ねるわけです、30節、『先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか？』って…。

そして、パウロから、この有名な言葉が出るわけです、31節、『主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます』って…。そして、この後、看守とその家族がイエス様を信じて、バプテスマを受けるわけです。

このことから、一体何が分かるのか？⇒それは、私たちの苦難は、苦難だけで終わらない！ということです。…良いでしょうか？皆さん！天の神様の御計画は、数多く、あちこちに散らばっているわけではありません！神様の御計画は、たった1つであつて…、実は、たくさんのごことが皆、繋がっているのです！今、私たち全員は、神様の壮大な…、たった1つの計画の中で生かされているのです！

『歴史の中で、たらればは無い』ということは、よく言われます。…でも、皆さん、どう思われます？…もしも、この時、パウロたちが投獄されていなかったら、このピリピの看守とその家族は、果たして、救われたでしょうか？…正直、それは誰にも分かりません。でも、私たちが知っているのは、実は、すべてのことは、神様の御計画の内にあって…、誰が救われるか救われないか、というのは、実は、はるか以前から、神様のみこころの内に定まっている(エペソ1:4)！ということです。そうでしょ？皆さん！

だから、私たちは、こう考えるべきです、「もしも、あの時、パウロたちが投獄されていなかったら…ではなくて、このことも、間違いなく、偉大なる神様の御計画の内にあることだから、神様に信頼して、神様の前に正しいことだけをしていこう！」って…。そうじゃないでしょうか？

ちょうど、少し前は受験シーズンでもあったので、今からしばらく、私のことを証しさせてください。実は、

私は、高校受験で、自分が行くはずが無かった…、いえ、受験すら受けるはずも無かった高校へ進学してしまいました…。そのことを話すと長くなるのですが、簡単に言うと、私の父親からの命令と言うか、しかも、その父親のいい加減な“心変わり”が原因でした。そのために、私は、受験の直前まで、自分が全く想像もしていなかった高校へ進学してしまっただけです。正直、今となってしまえば、もう、そんなに大きく引きずることも無いのですが、高校受験と言えば…、当時、私はまだ中学3年生でした。…当時、私は、自分の父親のいい加減な心変わりによって、無理矢理、行きたくもない高校へ行かされてしまったことがショックで…、正直、3年間も、そのことを引きずってしまいました。そのことを感謝できるようになったのは、高校3年生になってからの同級生に教会に誘われて…、そのことがきっかけで、真の神様のことを知ることができるようになってからです。

それとよく似た話で…、実は、私の親戚は、私が教会に行き始めたのが、ちょうど、私の母親が脳卒中で倒れて、植物状態であったというようなタイミングだったので、「あー、あの時、よっちゃんは、精神的に弱ってたから…、だから、教会に引き込まれてしまったんだ…」という風に、未だに考えています。正直、私は、そんな風に思われるのがイヤです。…と言いますのは、私が信仰を持ったのは、当時の私が精神的に弱っていたからでも…、あるいは、マインドコントロールされたわけでもないからです。

でも、それと同時に、私が思うことは…、正直に言いますと、もしも、あの時、自分の母親があんな状態でなかったら、「果たして、私は教会に行っただろうか？いや、もし、教会に行っただとしても、本当に、イエス様のことを信じる事ができたのだろうか？」ということです。…正直、それは私にも分かりません。

それと、もう1つ、私のことを証しさせてください。私には、皆さんもよくご存知の通り、吃音の障害(＝どもる癖)があります。…正直、このことは、私にとってイヤでイヤで、この気持ちは、同じような障害を持っている者でないと、まあ分かってもらえないと思います。正直、この障害は、私の人格形成や様々な考え方、感性などに、かなり大きく深い影響を及ぼしていますので、もしも、私に、このような癖が無かったら、私が教会に来ているかどうか？救われているかどうか？全く分かりません。

でも、そういったことは私だけではありません。…私の知っているある方は、ある時に、友人を事故で亡くして、それがきっかけで、自分のいのちや救いについて考えて、救いに至った方がおられます。また、別のある方は、悲惨な家庭環境で育ったことがきっかけで、教会に導かれて、救いに至りました。正直、私のように母親を亡くすことも…、友人を失うことも、悲惨な環境で生まれ育つことも、決して、喜ばしいことではありません。しかし、そういったことが用いられて…、私たちの今の人格が形成されて…、また、そういったことがきっかけで、信仰に至ったりするわけです。…このように、私たちは、神様の壮大な計画の中で導かれているわけであって、そういったことは、今の新型コロナに関しても、言えるわけです。そうでしょう？…だから、私たちは、すべてのことについて感謝できるし…、どんな環境の中にあっても、神様に信頼し…、希望を持ち続けることができるのです！

…と言いますのは、私たちが信じ仕えている神様は、この世界をたった1週間で創造されたり…、一瞬の内に病を癒したり…、嵐を静めたりしてくださっただけじゃない！この神様は、私たちのために、そのひとり子であるイエス様でさえ、犠牲にしてくださるような、愛に満ち溢れた御方であるからです！

## II・数々の災害に会った、旧約時代の「ヨブ」！(ヨブ記 1-42 章)

さあ、今度は、旧約聖書の人物を少し観察していきたいと思います。どうぞ、今度は、ヨブ記 1:1をお開きください？次に、私たちは、史上最大級の災害を経験した、旧約時代の「ヨブ」という人物に目を留めていきたいと思っています。これまた、皆さんが、よく知っているであろうエピソードです。

●ヨブは、当初、数々の被害を受けたにも関わらず、神をほめたたえた！

ここヨブ記 1-2 章のストーリーは、皆さん、よくご存知ですよね？…簡単に言いますと、ヨブという、非常に敬虔な信仰者がいるわけです。彼は、正しく、神様のことを恐れ…、悪から遠ざかっておりました。…しかし、そんなヨブに目を留めたサタンは、神様のところへ行行って、こう言うわけです、「ヨブが、あんなにも、神様に従順なのは、神様、あなたがヨブのことを祝福して、たくさん子どもや財産を与えているからですよ！」と言うわけです。

そこで、サタンは神様から許しをもらって、ヨブを数々の苦難に遭わせました。そのために、ヨブは、あっという間に、自分の財産や妻以外の家族を失ってしまうわけです。しかし、その後で、ヨブが口にした言葉が、これです。ヨブ記 1:21-22、『21 …「私は裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかきこに帰ろう。【主】は与え、【主】は取られる。【主】の御名はほむべきかな。」 22 ヨブはこのようになっても罪を犯さず、神に愚痴をこぼさなかった。』と記されています。

そして、今度、ヨブ記 2 章に入りますと、サタンの手が、ヨブの健康までも襲います。何と、『ヨブの足の裏から頭の頂まで、悪性の腫物』が発生したというのです。あまりに酷い状況のため、ヨブの妻でさえ、ヨブにこう言います、『…神をのろって死になさい』って…。しかし、それでも、ヨブは、こう証しするわけです、『あなたは愚かな女が言うようなことを言っている。私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざいをも受けなければならないではないか。』ヨブはこのようになっても、罪を犯すようなことを口にしなかった。』(ヨブ記 2:10)とあります。…でも、多くの人たちが知っている内容は、ここまでです。

ヨブ記を見てくださったら分かる通り、このヨブ記は、何と、42 章まであります。でも、実は、多くの方たちは、その3章以降の内容を読んだことが無いとか…、読んでくださっていても、「あまりよく分からなかった…」という感想が多いです。でも、皆さん、私たちの信仰って、そんなに単純なものですか？…突然、私たちに、何か、災難や問題が起こって、ある人は、完全に勝利して…、また、別の人は、すぐに屈してしまうでしょうか？…私たちの人生や信仰って、そんなに単純ではないでしょう？

ヨブだって同じです。…確かに、私たちがよく目にする、ヨブ記 1-2 章のところでヨブは、一見、様々な問題が襲っても、何の罪も犯さず…、信仰を守り通したように「見えます」。しかし、もちろん、それだけでは終わらないのです。…たくさん困難がヨブを襲った後で、ヨブの友人たち3人が来て、ヨブに質問をして…、その結果、ヨブのことを責め始めます。あなたが、こんな酷い目に会ったのは、何か、あなたが罪を犯したに違いない！というわけです。…いわゆる、「因果応報」というやつです。確かに、聖書の中には、そんな風なことも記されています。

しかし、ヨブの場合は、全くそうではありませんでした。…ヨブの場合、彼が、たくさん苦難を経験したのは、サタンこそが原因であり…、そのきっかけは、ヨブ自身が模範的な信仰者であったからです。そうでしょう？…しかし、悲しいかな。そのことを知る者は、地上には、誰もおりません。…正直、もしも、私が神様の立場に居たら、きっと、私はヨブに対して、こう言ったでしょう、「ヨブよ、大変だったな…。実は、あなたが数々の困難に会ったのは、サタンがあなたの信仰を試したからだ…」って…。でも、そんなことを全く知らないヨブは、その後で、だんだん、霊的にダウンしていつてしまいます…。

ヨブ記 3 章以降を見てくださったら分かるのですが、その後で、ヨブは、次第に、自分自身の死を願うようになっていきます。…皆さんも、あまりの困難のゆえに…、あるいは、問題の先行きが見えずに、もうすべてがイヤになってしまって、「もう死んでしまいたい！」なんて思ったことはありません？…ヨブも、そんな感じだったのではないのでしょうか？

このヨブだって、実は、私たちと、そう大きく違うわけではありません。ヨブだって、私やあなたと同じように、いろいろなことで悩んで…、苦悩して、葛藤して、生きていったのです。…だって、そうでしょう？実は、ヨブ

記、全部で42章書かれてある内のほとんどが、そういったヨブ自身が経験した苦悩や友人たちとの問答などで占められているのです。

●しかし、苦悩するヨブに対して、神は、御自身の御性質を明らかにされた！

じゃあ、一体、どうやって、この物語は完結していくのでしょうか？…皆さん、興味ありません？…どうぞ、皆さん。この礼拝の後で、ぜひ、このヨブ記を読んでみてください(笑)。…というのは冗談で、ぜひ、皆さんがヨブ記を読みやすいよう、簡単に説明しておきたいと思えます。

もう簡単にざっくり言ってしまうと、最後、神様がヨブのことを諭してくださいます。…でも、神様は、ヨブに対して、「実はな、ヨブ…、サタンがわたしのところに来てだな…」という風には、おっしゃいません！神様は、最後、ヨブに対して、神様御自身が、どのような御方であるか？ということ明らかにされるのです！

どうぞ、皆さん、できましたら、ヨブ記38章を開いてくださいます？…ここから、神様がヨブに対して、直接語ってくださっているわけですが、そこには、こう記されてあります。ヨブ記38:1-8、『1【主】はあらしの中からヨブに答えて仰せられた。2 知識もなく言い分を述べて、摂理を暗くするこの者はだれか。3 さあ、あなたは勇士のように腰に帯を締めよ。わたしはあなたに尋ねる。わたしに示せ。4 わたしが地の基を定めるとき、あなたはどこにいたのか。あなたに悟ることができるなら、告げてみよ。5 あなたは知っているか。だれがその大きさを定め、だれが測りなわをその上に張ったかを。6 その台座は何の上にはめ込まれたか。その隅の石はだれが据えたか。7 そのとき、明けの星々が共に喜び歌い、神の子たちはみな喜び叫んだ。8 海がふき出て、胎内から流れ出たとき、だれが戸でこれを閉じ込めたか。』と、こんな風に続いていきます。

一体、ここで、神様は、ヨブに対して、何を語っておられるのでしょうか？⇒簡単に言うと、神様が、どれほど、偉大であるか？ということですが、…良いですか、皆さん。如何にヨブが、立派な信仰を持っていたとは言え、所詮は、私たちと同じ人間です。そのため、私たち人間には分からないことや、どうしても納得いかないこと…、あるいは、私たち人間の領域を超えた問題だって、たくさんあります。そうですね？

しかし、それに対して、天の神様には、何の制限も、限界もありません！天の神様の前には、すべてが裸で…、神様はすべてを御存知であり…、すべては神様の支配下にあるのです。神様は、そういったことを、これ以降、ヨブに“とうとう”教えてくださるのです。

実は、今から紹介するコメントは、チェーン式の聖書に記されてあることなのですが、チェーン式聖書の「ヨブ記 緒論」のところには、こんな風に記されてあります。「神は人を訓練する崇高なお方である。人は神を理解することができないのだから、自らを賢いとはせず、力と公正と正義の神を恐れよ」って…。また、こうもあります、「神は、ヨブの質問に直接には答えられない。むしろ、創造と摂理の中で、偉大な知恵と力を示す神を認識せよと迫る…、(略)、むしろ、神ご自身がいかなる方を示し、無条件で神の御前にひれ伏すことを求められた。これが信仰である。」って…。

いかがでしょうか？…皆さんは、神様に対して、「神様！どうして、あなたはこんなことをなさるのですか？ちゃんと、私に分かるように説明してください！」なんていう風な態度を取ってはおられないでしょうか？…でも、どうか考えてみてください！神様は、何かを、私たちに説明しないといけないのでしょうか？私たちは、神様が、一体何の目的で、このことをなされたのか？このことが起こった最終的な目的を理解できないなら、従わなくても良いのでしょうか？

正直、私は、過去、何人もの人たちに伝道してきて…、その内、何人かの人たちに、こう言われたことがあります、「うーん。やっぱり、いまいち、神様のことを信じることはできません。もしも、神様が私の前に

現われてくださって、私に直接語りかけてくださったら、信じるができると思うのですが…」って…。皆さんは、どう思われます？

こういったことを言われた場合、私は、「あなたは一体、自分を何者だと思っています？すべてを創造された造り主なる神様が、わざわざ、あなたのために現われて…、そして、何かをせよ！とあなたは言うのですか？」というようなことを、できるだけ、やんわりと…、遠回しに言うようにしています(笑)。でも、そうじゃありません？

天の神様は、もう既に、私たちのために、たくさんのおことをしてくださっています。…私たちのために、様々なみことばを残し…、救い主を遣わし…、その救い主であるイエス様は、私たちにたくさんのお教を残して…、私たちの罪すべてを負って、あの十字架にかかって、罪の贖いをしてくださいただけじゃなくて、その後、約束通り、3日目によみがえってくださいました。それ以上に何が必要なのでしょう？

天の神様は今、すべてのことを御支配してくださっています…。神様のお許しがあるから、私もあなたも生かされているのです。神様が、私たちに、たくさんのお恵みを与えてくださっているから、私たちも今、こうやって礼拝を捧げることができているのです。…神様が、どれほどの力を御持ちなのか？それは、聖書を見れば分かります。神様が、どれほどの愛で、私たちのことを愛してくださっているのか？それは、イエス様の十字架を見たら分かります。神様が、先に起こることを、どのように導いてくださっているのか？それは、聖書に記されてある預言などを見れば分かります。…そうでしょう？

じゃあ、それ以上に、何が必要でしょうか？…私たちは、この神様の前に、ただ、頭を下げて、ヨブと同じように、「神様、私は、あなたを信頼します。あなたのなさることに、何一つ、間違いはありません。どうか、私がいつもあなたを信頼できるように…、また、あなたを悲しませることが無いように、私のことを導き…、私のことを霊的に成長させてください！」と祈るべきではないでしょうか？

今日、多くのキリスト教会では、神様と私たち人間のどちらが上か、分からないようなアドバイスをすることがあります。しかし、皆さんは、よくご存知です。この神様だけを信頼し…、この神様のことを、いつ如何なる時もあがめるような…、そんな信仰者であっていただきたいと思えます。最後に、ヘブル11:1のみことばを紹介させてください。『信仰は望んでいる事から保証し、目に見えないものを確信させるものです。』…果たして、今、皆さんが持っている信仰は、この聖書が教えてくれているような、神様にだけ、深い信頼を置いたような信仰でしょうか？それとも、「私は、この神様を信じたら、良いことがあると聞いたから、私は、この神様を信じたんです！もし、この神様が、私の思い通りに動いてくださらないなら、そんな神様は必要ありません！」というような信仰でしょうか？

どうか、そういったことを今一度、皆さんがよく吟味して下さって、この1週間を、神様に喜ばれるよう、歩いていっていただきたいと思えます。神様がなしてくださることに、何一つ間違いや失敗はありません！最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。